

農学部

1. 教育研究上の目的

本学部は、環境、生物の多様な機能、生産農学に対する基礎的な理解を基に、生命科学や最新の技術を取り入れ、時代に即した農学の発展に資することを目的としている。特に、生物多様性の保全と利用、農畜産物の生産、植物・動物や食の持つ様々な機能の活用などの学際的な領域までを対象として教育・研究を行い、豊かな心と実学的知力を養い、国内外において地域リーダーとして活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

2. 教育目標

農学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 農業・畜産に関する広範な知識と問題解決能力を持ち、農業や畜産関連産業の発展に貢献し得る能力を有する者
- (2) 生命科学としての農学的見地から、農畜産物の生産領域や環境、医薬、理学などとの学際的領域の発展に貢献しうる能力を有する者
- (3) 農学的見地から生物多様性、植物・動物、食の有用性を見出し、社会・環境への活用を考える能力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

農学部は、それぞれの立場から生物多様性の保全と活用、医・薬・理学との境界領域を含む農畜産業、生物の持つ様々な機能の活用に関連する産業の発展等に貢献できる能力を有した人材を輩出するため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 農学に関する基礎的・基盤的な知識と技術を習得した上で、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や技術、コミュニケーション力などの能力を身につけている。
- (2) 各学科の講義科目、実験、実習、演習、さらには卒業論文を通して、学科において学ぶ広範囲な知識と判断力及び問題解決能力を身につけ、総合的な判断力とバランス感覚を有している。
- (3) 農学に関わる環境領域、生命科学領域、農畜産物の生産領域および生物活用などの領域の専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。
- (4) 各学科における学修や諸活動の経験に基づき、社会における諸問題への高い見識と展望を持ち、自ら考究して問題を解決する能力を有している。

4. カリキュラム・ポリシー

農学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、動植物の基礎的な知識を基に、実践的な農学の専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下のことに配慮しながら教育課程を編成します。

- (1) 学生が総合的で幅広い知識を持つように、研究室配属前の学生に対し、学部共通科目を開講し、自然科学、社会科学の両分野にわたる教育を行う。
- (2) 研究室所属後も学科共通科目やコース選択科目を配置することで、広く農学に関する素養を身につけるための教育を受けられるようにする。
- (3) 強い好奇心と探究心、諸問題への高い見識と展望を持って、自ら解決する能力と総合的な判断力を持った学生を育成するため、講義科目と実験・実習、演習科目及び卒業論文を効果的に配当する。
- (4) 各学科で定める専門的知識と能力が身につくよう、各学科のカリキュラム・ポリシーに従い専門科目を配当する。
- (5) 学習成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、就農・キャリア科目及び学外実習科目を開講する。

5. アドミッション・ポリシー

農学部では、生産科学、生命科学、環境科学および生活科学としての農学の立場から、生命現象の解明、国内外における農作物や畜産物の安全かつ安定した生産と供給および技術革新、さらには生物多様性の保全と活用、動植物や食の持つ多様な機能の活用による人の生活の質の向上など、広範な領域で活躍できる人材を養成しています。そのため、本学部では次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校までに得られる国語、英語、数学をはじめ、農学を学ぶ上で必要な生物や化学などの基礎学力と知識を身につけている。
- (2) 人類社会の直面する食料問題、資源問題や環境問題などの解決、生命現象の解明に取り組む意思と意欲を持っている。
- (3) 自然や生き物の持つ価値を理解し、それらを人類の福祉と持続的な社会の構築に役立てる意欲を持っている。